



オムニバスセッション 知の形成史

【ハイブリッド開催】

第12回 2024 11/20 [水] 13:00～

会場 …E-E-212 会議室 / Zoom(オンライン併用)

どんな分野でもそうですが、「人文社会系」、もっと大きく「文系」としてくられる学問の中にも、多様な方法と目標・関心を持つさまざまな研究領域が広がっています。しかし、それぞれの研究領域は、初めから現在の形で個別に独立して存在していたものではありませんでした。そこには少なからず、人々の知的好奇心に導かれながらも、時代の移ろいや、それともなう社会の要求にも応答して分化してきた経緯があります。

本シリーズではいま一度、それぞれの領域の「出来(いでき)はじめ」を紐解きつつ、現在の学問が時代や社会に何を要求されているのか、そして何ができるのかを考えます。人社系の知の意味と意義を問いなおすことを通じて、協働研究の「コモンズ」醸成を目指します。

鷺崎 俊太郎 九州大学経済学研究院准教授
産業・企業システム部門

西鉄沿線の近現代史

—空間利用から捉える「点と線」の結びなおし—

2024年は、西鉄天神大牟田線・貝塚線の開業100周年にあたります。沿線の歴史とは土地の歴史であり、そこでは、高い利便性ゆえの生産活動が過去から行われてきました。とりわけ、西鉄沿線の場合、そのジャンルは、第1次産業から第3次産業まで、多岐にわたっています。それらは、現代の生活とどう結びついているのでしょうか。今回は、「住みやすい街に向けた水の制御」、「西鉄沿線の戦時・戦後復興期」、「教育文化の発展と施設のあり方」という3つのテーマを掲げながら、駅で結ばれた路線を一旦ほどいて、テーマに沿って新たな線を結び直し、沿線という単位で考える空間史の世界を描き出してみたいと思います。

〔聞き手〕黒瀬 武史 九州大学人間環境学研究院 教授

〔司会〕蛭沼 芽衣 九州大学人文科学研究院 助教

